

U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

米国 インフレによる押上げでインフレ懸念高まる (05年9月輸入物価) 05年10月13日(木)

~もともと、製品物価は落ち着いた動き持続~

(No. UI - 119)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

輸出入物価 (U.S. Import and Export Price Indexes)

	輸出物価	輸入物価					自動車	消費財	実効ドル レート
		除石油	工業原料	石油	資本財	消費財			
04/09	+0.4	+0.5	+0.1	+1.5	+3.3	0.1	+0.2	+0.0	0.4
04/10	+0.6	+1.6	0.1	+5.0	+11.1	0.2	+0.3	+0.1	1.4
04/11	+0.3	0.3	+0.9	1.3	6.0	+0.1	+0.1	+0.2	2.6
04/12	+0.1	1.4	+0.4	5.1	11.4	+0.3	+0.1	+0.3	1.1
05/01	+0.8	+0.6	+0.3	+1.2	+2.2	+0.3	+0.0	+0.6	+0.6
05/02	+0.1	+0.9	+0.1	+2.2	+5.1	0.1	+0.0	+0.5	+0.2
05/03	+0.7	+2.2	+0.3	+7.0	+13.4	0.1	+0.0	0.2	0.6
05/04	+0.5	+0.9	+0.4	+2.8	+3.6	+0.2	+0.1	0.1	+0.9
05/05	0.2	0.8	0.2	2.7	4.4	0.1	+0.0	+0.1	+0.5
05/06	+0.0	+1.2	0.2	+4.1	+8.9	0.1	+0.1	+0.0	+1.1
05/07	+0.1	+1.2	0.2	+4.2	+7.6	0.7	+0.0	0.2	+0.5
05/08	0.1	+1.2	+0.1	+3.4	+6.0	+0.0	+0.1	0.2	1.2
05/09	+0.9	+2.3	+1.2	+6.2	+7.3	+0.0	+0.1	+0.3	0.2

(出所) 労働省 (Department of Labor)

(注) 未季調、前月比、%。実効レートはFRB算出ベース。

*1:Automotive Vehicles, Parts & Engines

*2:Consumer Goods, excluding Automotives

輸入物価 (除く石油) は前月比 +1.2%

05年9月の輸入物価(最終財)は、石油・同製品が前月比+7.3%上昇したため同+2.3%(前年同月比+9.9%)と上昇ペースが加速し、市場予想の同+1.0%を大幅に上回った。一方、輸出物価は同+0.9%と2ヵ月ぶりに上昇した。

変動の大きい石油を除いた輸入物価(最終財)は、前月比+1.2%(前年同月比+3.0%)と89年1月の同統計算出開始以来最大の伸び率となった。この上昇は同+28.8%と急騰した天然ガスを含む工業原料が上昇した影響によるものである。最終製品である資本財、自動車、消費財物価は安定している。消費財(除く自動車)は、2ヵ月連続で下落した後、肉・野菜、タバコ価格の上昇による一時的な変動の影響もあり同+0.3%となった。資本財は、コンピューター、電気機械・設備、通信機器の下落によって同+0.0%と2ヵ月連続で前月比変わらずとなった。自動車の輸入価格は米国内での競争激化を背景に同+0.1%と低い伸びにとどまっている。

原油価格が1バレル=65ドル台で推移し、ドル実効レートが低下したことで、輸入物価押し上げ圧力は強まっている。トレンドを示す3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率でも石油が+103.8%とプラス幅が拡大したため、輸入物価は+13.9%とプラス幅が拡大した。しかしながら、変動の大きい石油を除いた輸入物価(最終財)は+0.3%と低い伸びにとどまっており、足下でエネルギー価格とそれ以外の製品価格動向で乖離が続いている。

地域別の輸入物価は、米州、欧州が上昇した一方、アジアが下落した

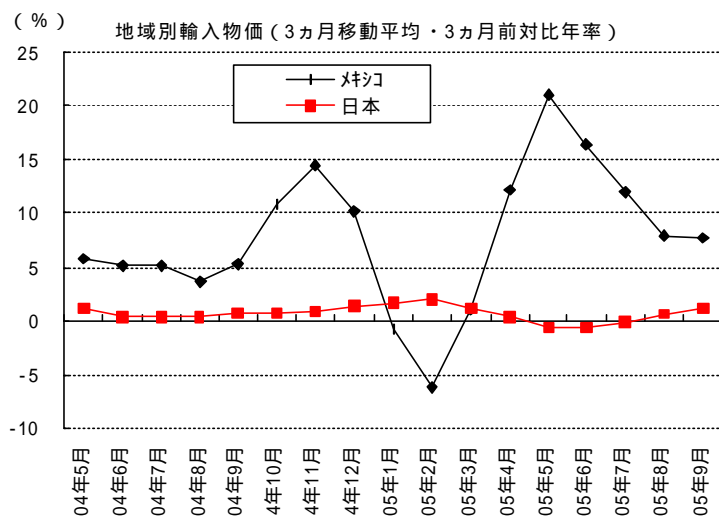
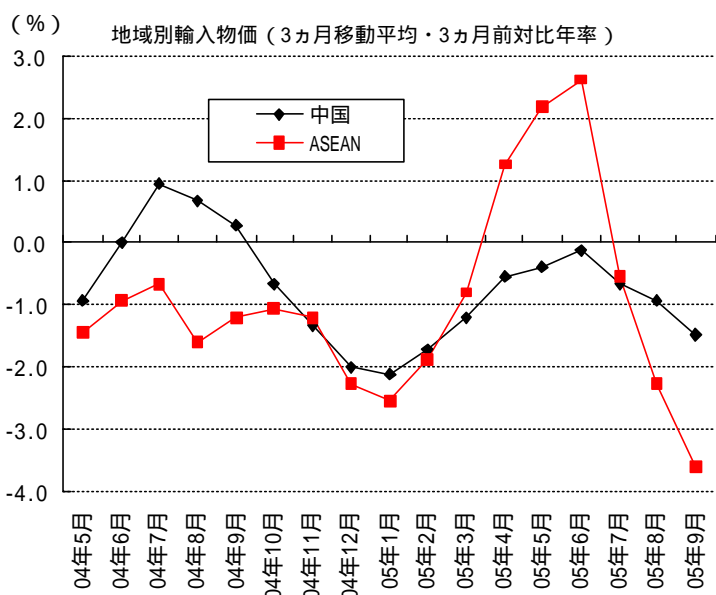
地域別の輸入物価をみると、米州からの輸入物価が上昇した。メキシコが前月比+1.0%(前年同月比+8.5%)、カナダが同+4.5%(同+12.2%)、ラテンアメリカが同+1.3%(同+14.5%)と高い伸びとなった。さらに、EUが同+1.4%(同+5.0%)とエネルギー関連の輸入増加を背景に上昇ペースが加速した。一方で、アジアからの輸入物価をみる

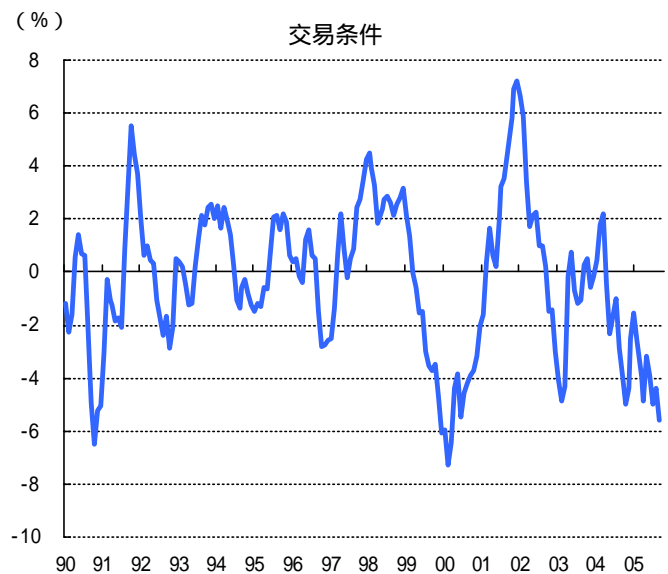
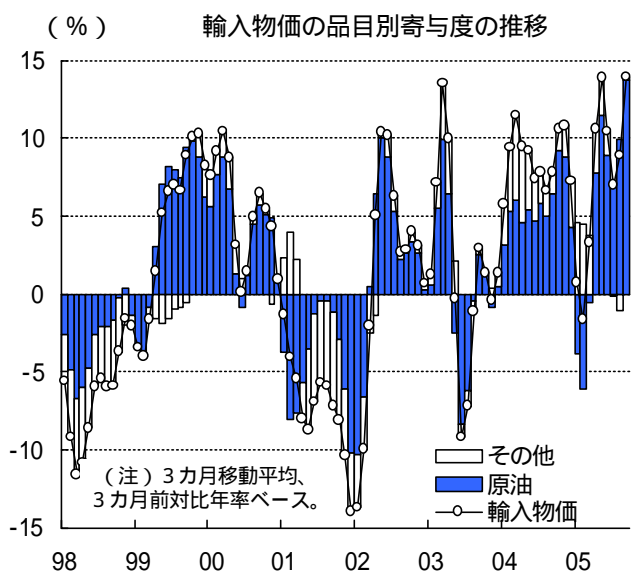
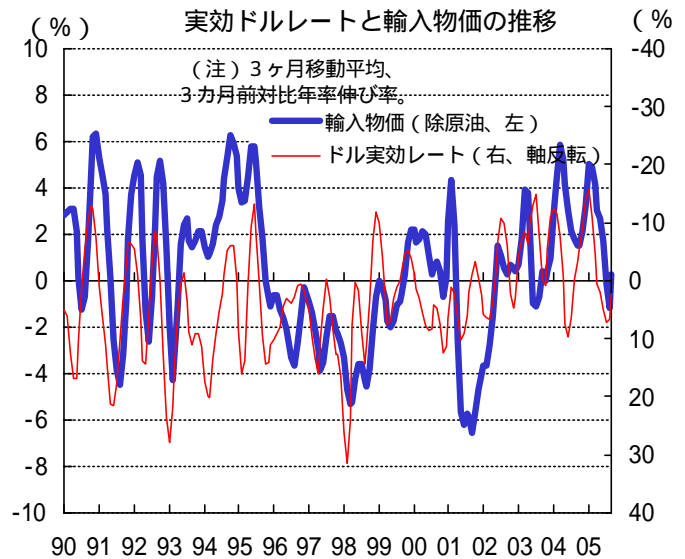
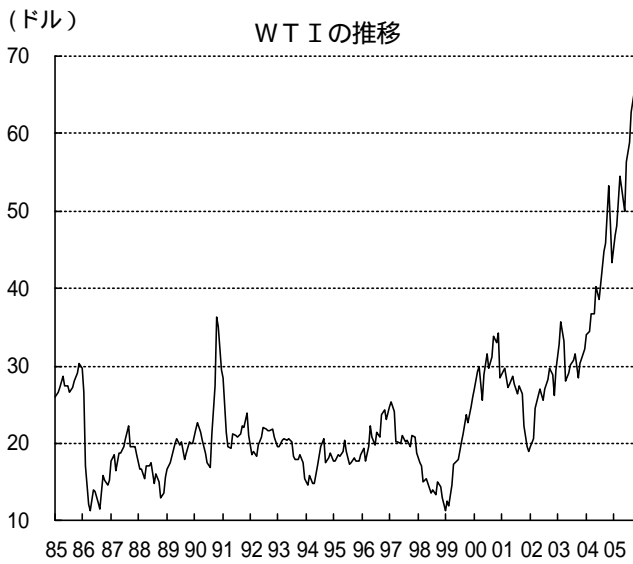
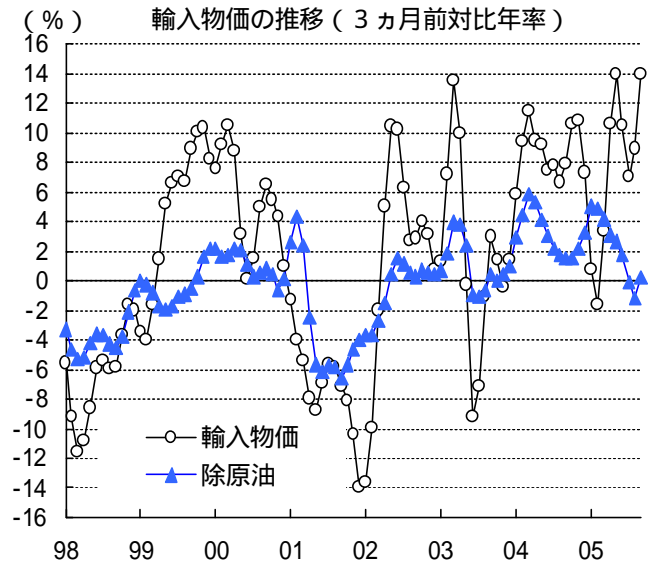
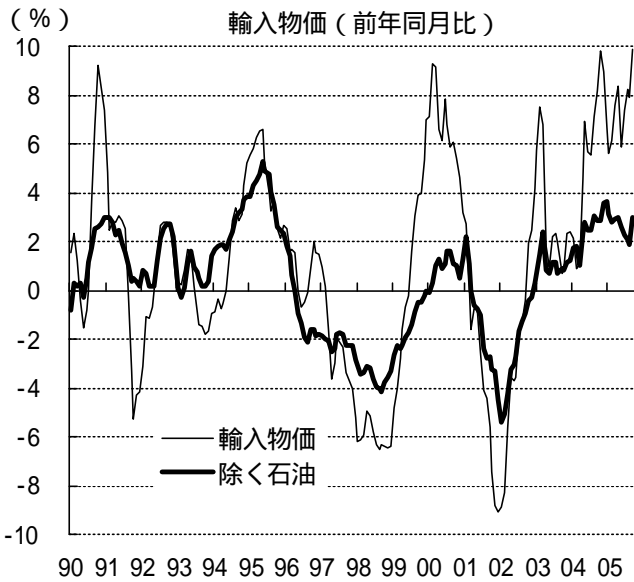
と、元が徐々に切り上がっているにもかかわらず中国は同 0.2% (同 1.2%) と下落し、ASEANが同 0.2% (同 1.2%)、NIE Sが同0.0% (同 1.4%)、日本が同+0.2% (同+0.8%) とハイテク関連製品の輸入が多いアジアからの輸入物価は抑制されている。

交易条件(輸出物価/輸入物価)は、輸出物価が前年同月比+3.8%とプラス幅が拡大したものの、輸入物価が同+9.9%と伸びが高まったことからマイナス幅が拡大しており、マクロでみた米国の対外収益性は再び悪化した。

今後も、製品の輸入物価上昇圧力は限定的なものに

今後の輸入物価を取巻く環境については、ハリケーン「カトリーナ」「リタ」の襲来による原油、石油精製、天然ガス等エネルギー関連施設の停止による供給不足懸念や、過剰流動性を背景にエネルギー価格は高止まりする可能性が高い。しかし一方で、金利差拡大によってドル実効レートの上昇が今後見込まれることから、輸入物価の上昇圧力は緩やかに緩和していくとみられる。加えて、製品価格の上昇は世界的な価格競争の強まりを背景に限定的なものにとどまると予想されることから、エネルギー価格を除くコアの輸入物価は落ち着いた動きが続く公算が大きい。





本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。